

<活動の概要>

個人研究に関しては、主に長期的な「ラジオ研究」、数年前より始めた「メディアと地方自治に関する研究」、そして新たに始めた「アートベースド・リサーチ」の3つを軸にすすめた。フィールド調査も斜里、西興部村、知床、鹿児島、南大隅、スコットランドなどで実施し、充実した調査活動を行うことができた。これらの調査研究の成果は、国際学会、国内学会、学術誌、紀要などで発表した。

学内プロジェクト研究である「Community Resilience Research」では、成果をまとめた書籍を9月に出版した。また新たに「Art of Listening」プロジェクトを開始し、多様な活動を展開した。

<学内での活動>

研究プロジェクト

(1) コミュニティ・レジリエンス・リサーチ

2023年3月まで3年間実施した「コミュニティ・レジリエンス・リサーチ」の成果の一部を、プロジェクト担当の教員と学生らで執筆し、『1500年続く山の集落から学ぶ一人新世におけるコミュニティ・レジリエンス』（さいはて社）として2023年9月に出版した。

(2) Art of Listening プロジェクト

2023年度から新しい研究プロジェクトとして「Art of Listening」を開始した（プロジェクト代表）。担当教員や履修生らにより、これまで既に6つのイベントやリサーチ活動が実施し、短期間でありながら、充実した成果をあげることができた。（詳細はプロジェクト研究報告書にて報告）

個人研究・共同研究の公開

(1) ラジオに関する研究

放送トーク論と会話分析による調査研究の成果が、『社会情報学』第11巻2号にて原著論文（査読付）『コミュニティ放送における災害の語り:会話分析によるゲストとパーソナリティの相互行為』として掲載された。

また、ケアの倫理を理論的視座におき、ラジオを介したコミュニケーションをケア・コミュニケーションとして捉えることを複数の事例研究をもとに体系的にまとめた。これらをもとに、ケアの倫理を新たなメディアコミュニケーション論として含めていく必要性として明示した編著『ケアするラジオ〜癒し、励まし、寄り添うメディアコミュニケーション』（さいはて社）が2024年3月に出版される予定。

(2) メディアと地域自治に関する研究

2021年にNHK札幌局の番組「ローカルフレンズ滞在記」を対象として、マスメディアと地域自治に関する調査研究を開始、2023年には北海道（西興部村、斜里町、下川町）だけでなく、NHK鹿児島局でも2023年4月から同番組が開始されたことから、鹿児島（鹿児島市と南大隅町）でも調査を実施した。これまでの調査研究の成果の一部は2023年7月にフランスのリオンで開催された国際メディアコミュニケーション研究学会（International Association for Media and Communication Research）にてメンバーと共に発表した。また、この論文に新たな調査結果と分析を加えた論文「The Value of Public Broadcasting in a Network Era: A Case Study of TV Show “A Travel Journey with Local Friends” by Actor-Network Theory」が、Keio Communication Reviewにて2024年3月に掲載される予定。また、これらの一連の調査活動と研究成果に関しては、NHK放送文化研究所が発行する『放送研究と調査』でも何度か取り上げられ、また、NHKの公式広報サイトや番組内でも紹介された。2024年度も、国際学会での成果発表を目指している。

(3) アートベース・リサーチ研究

大和日英基金の助成を得て、University of Highlands and Islands Invernessの研究者たちと共同プロジェクト“Participatory arts methods and coastal resilience in the North West Highlands and the Amami Islands”を開始した。9月には、スコットランドでUHIを訪問し、スコットランド特有のコミュニティ・ランド・オーナーシップの活動におけるアートベースドリサーチプロジェクトや、沿岸地域での参加型アート活動の視察を行なった。また、UHIの研究者や実践者とラウンドテーブルミーティングを行ない、日本のコミュニティとアートに関する実践について報告した。2024年3月には徳之島と奄美大島にて、この手法を用いたワークショップをUHIの研究者と共に実践する予定。

その他、「葦の芸術原野祭」（斜里町）や「奥能登国際芸術祭」（珠洲市）など複数のアートプロジェクトを視察し、地域におけるアートベース・リサーチについて考察を深めた。これら一連の考察をまとめた論考「Arts-Based Researchによる地域の記憶——2023年度の視察から」を、2023年度の本学紀要(2024年3月刊行)に掲載予定。

(4) その他活動

池田町有線放送電話プロジェクトを契機に、池田町住民有志により池田町有線放送アーカイブ活用推進委員会が結成された。2023年3月には、本学の他3名の教員らと池田町にて展示「池田町有線放送を考える」を開催した

その他、ラジオとケア、地域とアートなど、これまでの研究テーマに関連した講演を依頼されて行なった。

著書・学会発表

金山智子(編)『1500年続く山の集落から学ぶ一人新世におけるコミュニティ・レジリエンス』さいはて社 (2023年9月)

金山智子 共同討議「生きる源流としてのアート ～ひと・もの・ことがつながら美術教育～」第72回日本美術教育学会 学術研究大会岐阜大会 2023年8月

OHSUMI Ryo, SANO Kazuya, KANAYAMA Tomoko “Connecting Communities and Fostering a Sense of Local Autonomy: The Value of PSM in a Network Era” International Association for Media and Communication Research (Lyon) July 2023

森島勝博, 伊村靖子, 中原淳, 金山智子 「『ねお展ーアジュールであり続ける地域のこれまで そして これから』誌面座談会」情報科学芸術大学院大学 第14巻 2023年3月

金山智子「コミュニティ放送における災害の語り:会話分析によるゲストとパーソナリティの相互行為」『社会情報学』第11巻2号 (2023年3月)

金山智子 基調講演「メディアを通じたケアのコミュニケーション ～身の回りの小さなケアに目を向けよう～」ケアする人のケアセミナー in 岐阜 2023年3月

金山 智子 講演「人新世時代と地域の見方・見え方～根尾の事例から考える」はたや記念館 ゆめおーれ勝山 2023年3月

その他 社会活動など

- 岐阜県「清流の国ぎふ」SDGs 推進会議 座長
- 岐阜県「清流の国ぎふ」創生総合戦略推進会議 委員
- 2023年全国広報コンクール審査 審査委員
- さがの映像祭実行委員会委員 (デフムービー) および映画祭審査委員
- 公益財団法人石橋財団 評議員および寄付助成選考委員
- Keio Communication Review Editorial Advisory Board
- 特定非営利活動法人地域魅力 監事
- 一般社団法人むれらば 代表理事